

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：37105

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04294

研究課題名（和文）福祉的課題をもつ親子支援に対する保育士のソーシャルワークコンピテンシー

研究課題名（英文）The social work competency of nursery teachers for children and parents who need special care

研究代表者

山本 佳代子（YAMAMOTO, Kayoko）

西南学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：00364125

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、保育所において特別な配慮を要する子どもと保護者支援に求められる保育所保育士のソーシャルワークコンピテンシーを明らかにすることを目的とした。先行研究と保育士へのインタビューから保育ソーシャルワークコンピテンシー項目案を作成し、質問紙調査を実施した。探索的因子分析の結果、7因子31項目に収束した。確認的因子分析の結果、モデルの適合度はGFIは0.889、AGFIは0.866、RMSEAは0.042であり妥当な水準と評価した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育士のソーシャルワークコンピテンシーの析出は国内で初めて取り組まれる研究であり、今後の研究を牽引する成果となる。福祉的課題をもつ親子への支援に求められる保育士のソーシャルワークコンピテンシーについて追究する本研究は、特別なニーズをもつ子どもの健全な育ちと保育の質向上を目指す保育士の専門性研究に寄与する。また、家庭、地域の養育力の低下に伴う福祉的課題を抱えた子どもと親支援は保育実践の課題となっており、保育士のソーシャルワークコンピテンシーを明らかにすることにより、現場保育士が抱える親子支援への実践の困難感を軽減することができる。

研究成果の概要（英文）：The goal of this research is to clarify the social work competency of nursery teachers for children and parents who need special care. Based on the precious research and interview survey of the nursery teacher, the competency item draft was prepared, and the questionnaire survey was carried out. As a result of factor analysis on the social work competency of nursery teachers, a 7factor structure was found. The model was evaluated as valid, with the goodness of fit as GFI=0.889, AGFI= 0.866 and RMSEA=0.042.

研究分野：社会福祉学

キーワード：保育ソーシャルワーク コンピテンシー 保育士 特別な配慮を必要とする子ども

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

保育所ではネグレクトや虐待、経済的困窮家庭等、養育上の問題を抱える家庭が増加しており、保育士は多様な特性や課題を有する子どもと親への対応に苦慮している(山本:2014,山本・山根:2016)。このような福祉的課題を抱え、特別な配慮を必要とする子どもと保護者への支援に際し、従来の保育士の専門性だけでは対応が困難な実状があり、保育現場においてソーシャルワーク手法を用いた実践が求められる要因となっている。2003年に厚生労働省によりまとめられた次世代育成支援に向けた報告書では「保育所のソーシャルワーク機能の強化」があげられ、「ソーシャルワーク」を保育所の1つの機能として示された。同様に保育所保育指針(2008年改訂)の解説書においても保育士などがソーシャルワーク機能を果たすことが求められと記載されている。

研究領域では、2000年頃から「保育ソーシャルワーク」という用語が用いられ、保育ソーシャルワークの方法論や保育ソーシャルワークの実態を把握するための調査など、いくつかの研究が発表されてきた。しかし、実証的研究は少なく、保育士が支援にあたるうえで、具体的にどのようなソーシャルワークの知識や技術が求められ、またそれらを活用するかについては明確にされていない。保育士の困難感を軽減し、特別な配慮を必要とする子どもと保護者への支援の質を向上させるためには、保育士のソーシャルワークに関する具体的な行動、技能、知識等の能力であるコンピテンシーを明確にし、実践の指標とすることが必要である。すでに医療・看護・福祉等の対人援助職の分野では、職務内容に高い成果を発揮するための能力として「コンピテンシーの育成」に関する先行研究が見られる。しかし、保育領域での研究は少なく、保育士のソーシャルワークに関連したコンピテンシーは皆無に等しい。保育士による支援の質は、福祉的課題をもつ親子の生活の質に強く影響を与える。親子の支援に対する保育士に求められるソーシャルワークコンピテンシーを明らかにし、そのコンピテンシーを育成するための諸要因を明確にすることが極めて重要である。

### 2. 研究の目的

以上のような背景をふまえ、本研究では保育所において福祉的課題を抱え、支援に際し特別な配慮を必要とする子どもと保護者に対する保育士の支援実態と、支援に必要とされる保育士のソーシャルワークコンピテンシーについて調査から明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1)福祉的課題をもつ子どもと保護者に対する保育士の支援実態に関するインタビュー調査

保育所における福祉的課題と支援について保育士の視点から明らかにすることを目的とし、保育士を対象としたインタビュー調査を2018年3月に実施した。手順の詳細は下記の通りである。

##### 調査対象者

対象者は保育現場において子どもと家庭を取り巻く環境の経年的変化のなかで保育実践を体験していること、管理職種の経験があり、特別な配慮を要する子どもや保護者支援の経験値が高いことを条件とし、4名の保育士を選定した。

##### データ収集方法

グループインタビュー法を採用し、実施した。インタビューガイドは、保育所での保育実践において保育士の視点からとらえられている「保育における福祉的課題について」を準備し、対象者にはこれまでの経験に基づき自由に語ってもらった。

##### 分析方法

定性的コーディング法の一部を参照し、質的データの分析を行った。まずグループインタビューによって得られた録音データから逐語録を作成し、「保育士の視点からみる福祉的課題」と「保育における福祉的課題に対する支援」に相当する部分を抽出して要約し、コード化した。次に類似したコードを集約し、これをカテゴリーとしてそこに含まれるコードを代表し得る名称を付与した。一連の調査及び分析の妥当性については、複数の専門家によるエキスパートレビューを受けることで確保した。

#### (2)特別な配慮を必要とする子どもと保護者への支援に求められる保育士のソーシャルワークコンピテンシーに関する質問紙調査

保育士のソーシャルワークコンピテンシーを明らかにすることを目的とし、保育所保育士を対象とした質問紙調査を2019年2月に実施した。

##### 調査対象者

独立行政法人福祉独立行政法人福祉医療機構による保育所情報掲載ページにおいて認可保育所として掲載されている保育所一覧(2018年11月現在)より1,000施設を単純無作為抽出法により選定した。1対象施設につき、経験年数が異なる3名の保育士(施設管理者,5年以上勤務の中堅保育士,勤務2年以下の初任保育士)に依頼し,計3,000名(通)に無記名・自記式の質問紙調査(郵送法)を実施した。回収された調査票は685名(回収率23.1%)であった。調査票のうち、他質問項目により構成されている尺度については欠損値が1割程度以下のものを有効回答とした(678名)。

##### 調査内容

調査票の内容は基本属性、保育士のソーシャルワークコンピテンシーに関する項目によって構成した。質問項目作成にあたり、保育および保育ソーシャルワークにおける保育士の知識、技術、行動特性を捉えた先行研究の分析を行い、特別な配慮を要する子どもと保護者支援に関する保育士のコンピテンシーに関連した項目を抽出した。これらを包括的、系統的に集約し、最終的に6カテゴリー70質問項目からなる保育士のソーシャルワークコンピテンシーに関する調査票を作成した。質問項目に関して、「必要ではない(1点)」「あまり必要ではない(2点)」「やや必要である(3点)」「必要である(4点)」の4段階評定で回答を求め、点数化した。質問項目の内容妥当性については、複数の専門家(保育学、社会福祉学、統計学)および10年以上の保育士経験をもつ現役保育士によるエキスパートレビューを複数回受けることで確保した。

#### 分析方法

調査から得られたデータのうち、保育士のソーシャルワークコンピテンシーの明確化のため、分析対象者として10年以上の保育士経験をもつ者を抽出し、分析を行った(416名)。因子構造を明らかにするために、最尤法によるプロマックス回転を用いて因子分析を行った。因子負荷量が0.40未満の項目および複数因子に高い因子負荷量をもつ項目を削除し、繰り返し因子分析を行った。確認的因子分析には一般化最少2乗法によるプロマックス回転を行った。解析にはIBM SPSS21.0, IBM AMOS22.0を使用し、有意水準は5%未満とした。

## 4. 研究成果

### (1) 保育士の視点から見る保育における福祉的課題と支援の実態

研究依頼対象者4名のうち、当日グループインタビューに参加した3名から得られたデータを質的分析した。結果、保育士の視点から見た保育における福祉的課題として15コードが得られ、4カテゴリーが抽出された。抽出された4カテゴリーは「家族問題」「経済的問題」「育児にかかわる問題」「家庭状況と子どもの行動問題」であった。

保育における福祉的課題に対する支援については、分析の結果22コードが得られ、7カテゴリーが抽出された。7カテゴリーは「保護者に対する支援」「子どもに対する支援」「訪問支援」「連携」「困難事例に対するアプローチ」「保育士に求められる力」「支援の質向上のための課題」であった。このうち、福祉的課題に向き合うために求められる「保育士に求められる力」にかかわる内容には、円滑なコミュニケーション、受容・共感、イメージ力が、また、「支援の質向上のための課題」の内容としては、経験の積み上げ、研修強化、社会的地位の向上、課題に対応できる専門職種の配置がそれぞれ整理された。

インタビュー調査から見えた保育士の支援はソーシャルワークの観点から捉えなおすと、リーチアウト、アセスメント、社会資源の調整等に相当すると考えられ、保育士が福祉定課題を持つ親子に対する支援においてソーシャルワークを援用した実践を行っている実態が示唆された。本調査結果は保育所保育士のソーシャルワークコンピテンシーの量的調査を実施する際の質問項目選定に反映させた。

### (2) 福祉的課題をもつ親子に対する保育士のソーシャルワークコンピテンシーの因子構造

本研究では、70の質問項目に対して、最尤法、プロマックス回転による因子分析を実施した。因子分析の結果、31項目から構成された7因子に収束した。第1因子は、「特別な配慮を要する子どもの特性理解に即した、保育を実践することができる」「特別な配慮を要する子どもの特性をふまえた、保育の環境構成を行うことができる」等の8項目が含まれ、【特別な配慮を必要とする子どもへの保育実践コンピテンシー】と命名した。

第2因子は、「子育てしやすい地域や社会をつくるため、行政へのはたらきかけや啓発運動などの活動を行うことができる」「住民ボランティアなど、保育所や地域の子育て支援を担う社会資源を掘り起こし、活用することができる」等の6項目が含まれ、【支援ネットワーク構築コンピテンシー】と命名した。

第3因子は、「子どものことについて、保護者と緊密な情報交換・共有を行うことができる」「普段から周囲とコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気を作ることができる」等の6項目が含まれ、【コミュニケーションコンピテンシー】と命名した。

第4因子は、「うまく伝えることができない子ども(保護者)の思いを代弁することができる」「相手の考えや言動が自分自身の価値観とは異なる場合でも、一旦受け入れることができる」等の4項目が含まれ、【利用者尊重コンピテンシー】と命名した。

第5因子は、「自分が伝えたいことを、他者に言葉で正しく伝えることができる」「自分の伝えたいことについて、その考えや意見の根拠を示しながら伝えることができる」等の3項目が含まれ、【意思伝達コンピテンシー】と命名した。

第6因子は、「保護者が主体的に子育てに取り組むことができるよう、側面的に支援することができる」「問題が起こった後の対応ではなく、起こらずに済むよう予防的な視点をもって、支援策を検討することができる」の2項目が含まれ、【至適支援実行コンピテンシー】と命名した。

第7因子は、「子ども(保護者)の支援ニーズに応じた関係機関や団体等を適切に仲介することができる」「保護者に対し、必要と思われる子育てに関するサービスや制度等の情報を伝えることができる」の2項目が含まれ、【社会資源活用コンピテンシー】と命名した。

第1因子から7因子までの因子間相関は $r = .252 \sim .667$  ( $p < .001$ )であり、中程度の相関であった。また、各因子の内的整合性を示すCronbach 係数は、第1因子.838、第2因子.819、第3

因子.824、第4因子.775、第5因子.764、第6因子.759、第7因子.714であり、整合性が確認された。

さらに、探索的因子分析により明らかになった特別な配慮を必要とする子どもと保護者支援における保育士のソーシャルワークコンピテンシーの因子構造の妥当性を検討するために、確認的因子分析を行った。データと因子構造の適合度は、GFI=.889, AGFI=.866, RMSEA=.042であり、因子構造の妥当性を確認した。

<引用文献>

山本佳代子、保育所を中心とした地域連携の現状と実践的課題 - 保育ソーシャルワークの観点から -、山口県立大学学術情報、7号、2014、105-120

山本佳代子・山根正夫、保育所におけるインクルーシブ保育の現状とそれに関連する要因 - 子ども、保護者、関連機関との相互関連性、保育ソーシャルワーク学研究、2号、2016、21-32

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>山本 佳代子, 山根 正夫                | 4. 巻<br>66(13)      |
| 2. 論文標題<br>保育士が必要とする保育ソーシャルワーク内容の因子構造  | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>厚生指針                         | 6. 最初と最後の頁<br>15-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>山本 佳代子                       | 4. 巻<br>15(2)         |
| 2. 論文標題<br>保育士の子どもと保護者支援コンピテンシーに関する一考察 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>西南学院大学人間科学論集                 | 6. 最初と最後の頁<br>243-245 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>山本 佳代子                       | 4. 巻<br>4             |
| 2. 論文標題<br>保育士がとらえる保育所における福祉的課題と支援     | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>保育ソーシャルワーク学研究                | 6. 最初と最後の頁<br>39 ~ 53 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計8件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 青木 邦夫<br><br>(AOKI Kunio) |                       |    |

## 6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 山根 正夫<br><br>(YAMANE Masao)        |                       |    |
| 研究協力者 | 上白木 悦子<br><br>(KAMISHIRAKI Etsuko) |                       |    |